

株式会社入曾精密

代表取締役社長

齋藤 清和氏

入曾精密の齋藤社長は、3次元CAD/CAMを巧みに操り、ミクロン単位の微細加工を得意とする技術者だ。また、人をあつと驚かせることの天才でもある。

自社のオリジナル加工技術である『MC造型』によって、「0.3ミリのサイコロ」「アルミ製のバラ」「極限まで均質化されたダイス」など、はじめて目にした者は誰もが目を見張り、そのつくり方を尋ねたくなるようなモノをつくり上げてきた。

『MC造型』の可能性を
広めるために

齋藤社長いわく、『MC造型』とは、人（能力と経験）・最先端の加工マシン（機械・IT（CAD/CAM）の融合、つまり三種混合競技みたいなもの）——つまり、最新のマシンとCAD/CAM、そして設計を行う人間の卓越した技・センスのすべてが融合してはじめて可能となる技術なのだ。

齋藤社長は、その『MC造型』の可能性を広めるため、「0.3ミリのサイコロ」「アルミ製のバラ」など秀逸した微細加工品をつくり上げてきた。「アルミのバラ」のモデリングに費やした時間は300時間、プログラミングではざつと3週間という、驚くほどの込んだ作業



を必要とする。

ただ、そこには高い技術力が注入されていることはもちろんだが、遊び心も大切な要素として注がれている。それが齋藤社長のモノづくりの真髄であり、いつも穏やかな笑顔を絶やさない人柄を表しているといえる。

モノづくりと芸術の共通点

「一つのイメージから、自分にしかできない技術で、想像力をフルに使ってカタチにしていく。こんなに楽しく、素敵なことはない」。モノづくりを愛する齋藤社長は、少年時代には絵描きに憧れていたという。自分の感性・個性をまるごと反映させ、この世に一つしかないオリジナルを生み出すというその創造性に強く惹かれていたという。そんな想いを断ち切って進んだ製造業と



出目に偏りのない計算しつくされたダイス

いう道だったが、思いのほかのめり込むことが出来た。そして、モノづくりを続けていくうちに、自分が憧れていた「芸術の世界」との共通点に気が付いたという。「art」という単語はラテン語で『技術』という意味もあるらしいんで

すよ。CADでモデリングをする技術は、絵心が必要だと思うし、モノづくりは独自の技術、そして想像力をフルに活かしてカタチにするでしょう。そういった意味では、芸術と通じるどころがあるんじゃないかな。」と齋藤社長は分析する。

モノづくりに限界はない

齋藤社長は、出来るだけ若いスタッフの近くで仕事をし、自分の仕事を見せるようにしている。そのため、入曾精密のスタッフは、齋藤社長の仕事ぶりをじっくり見て技術を盗む。また同時に、モノづくりの楽しさも自然と学んでいくのである。「様々なことが変化していくのは、空気があるのと同じぐらい当然のこと。日々、新しいことはどんどん生まれていく。そういうことを意識し



多様な素材で作られたバラの花

て自分も毎日新しく変わっていきたい。そのためには限らないチャレンジが必要だ。若い技術者たちにも、限界はない、ということ、そしてモノづくりの楽しさを知って欲しい」と語る齋藤社長は、自身の持つ創造性、オリジナル리티を大切にしつつ、これからは誰もが目を奪われるようなオンリーワンの加工技術に挑戦していく。

編集部／柳直子

Company Profile

株式会社入曾精密

所在地：〒358-0032 埼玉県入間市狭山ヶ原 321-3

TEL：04-2934-4633 FAX：04-2934-4630

担当者：代表取締役社長 齋藤清和

事業内容：電子部品・通信機器・治工具など、三次元形状を含んだ多面加工および精密試作加工

エミダス会社・工場詳細情報：

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?63700>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索「入曾精密」で検索できます。